

4年生

オリ・パラ教育で円座小と交流

(25)

地域総合

2021年(令和3年)7月11日(日曜日)

車いすバスケの魅力発信

8月に開幕する東京パラリンピックを前に、高松市松並町の鶴尾小学校(田中義人校長)で8日、4年生が車いすバスケットボールの体験を通して学んだことを近隣の小学校に情報発信

近隣小学校にオンライン体験発表会

する発表会があった。参加した児童19人はオンラインで、競技の楽しさや競技用車いすの操作の大変さを紹介した。

同校は、本年度のオリンピック・パラリンピック教育推進事業の指定校に選ばれている。発表会などの取り組みは、パラスポーツの機運を高めるとともに、障害者への理解を深めてもらうのが狙いで、児童は6月下旬から授業として競技を体験し、車いすを利用する障害者の話を聞くなどしてきた。

この日、児童は同市円座町の円座小の4年生にビデオ会議ア

プリ「Zoom(ズーム)」を使って発表した。競技用車いすについて、実際に乗りながら競技のルールや魅力のほか、一般用車いすと違ってブレーキがなく操作が難しいことなどを分か

りやすく説明した。また、「1つの段差を越えるのも大変」といった障害者の日常の苦労話も伝えていた。

発表した杉本尚之君(9)は「車いす生活の大変さを学べた」、小笠原将太君(10)は「競技に興味を持った。東京五輪だけでなく、パラリンピックも観戦したい」と話していた。

鶴尾小、操作の難しさも紹介



車いすに乗り、操作の大変さをオンラインで伝える児童ら—高松市松並町、鶴尾小